

## 平和・未来

沖縄県立沖縄高等特別支援学校二年 神谷 空

コロナ禍で延期になっていた校外学習で三月に「平和資料館」に行きました。

そこでまず最初に戦争時に生きていた人々が逃げた「ガマ」を再現した洞窟を見ました。狭い岩だらけの空間にいる老人や母親と子どもたち。そして銃を持つ日本兵。どんな気持ちで「ガマ」の中で生きていたのか。僕は「生きる」ことの大切さを思いました。

その後、戦争で苦しんでいる幼い子どもや血だらけになって倒れている少年、銃でうたれて亡くなった子ども達の写真を見ました。心が痛みます。戦争の恐しさ、人々の苦しみが伝わってきます。戦争はやってはいけなくとも強く思いました。

今回、あらためて戦争について学習し、僕が考えたのは二つのことです。

一つは「食べ物」です。戦争時は、食べ物がなくなる人もいたと聞きます。今の世の中はどうでしょう。食べ物を残したり捨てたり。「食べられるだけでも幸せ」と考え、食べ物のありがたさを感じながら食べていきたいと思っています。

そして二つ目は「家族の大切さ」です。七十七年前の沖縄では四人に一人は亡くなり、友達や家族を亡くした人がたくさんいました。今、僕は家族と出かけたたり、楽しくご飯を食べたりしていますが、それはあたり前のことではなかった時代があったのです。それを思

うとやっぱり家族とこうして一緒に過ごすというだけでもとっても幸せなんだと感じます。

今、僕たちはおだやかに毎日を楽しく過ごしています。しかし、これから僕たちの未来は、戦争は絶対におこらないとはいえません。戦争はいつ、どこでおきるか分からないのです。だからこそ、僕も、そしてみんなも、平和、未来について真剣に考えていく必要があります。「戦争は絶対にだめだ」という強い気持ちを持ちながら一日一日を大切に生きていかなければならないと思います。平和な世の中が続くことを心から祈りたいと思います。